

授業 科目名	運動生理学総論 (Basic Exercise Phisiology)	履修年次	1 単位 15 時間	担当教員名： 稲垣武 [理学療法士] (研究室 東校舎 1)
		選択: 看・歯・理・作 2 年 看編 3・4 年 栄養 4 年	コード: BHA101	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 II コミュニケーション能力、IV 健康づくりの実践、VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
① エネルギー代謝や身体組成の基礎とそれぞれの測定方法について理解できる。				
② 呼吸・循環器官や骨格筋の基本的な仕組みと、運動時の変化について理解できる。				
③ 運動時のエネルギー生成・供給する過程を理解できる。				
④ 環境や性別、年齢等が変化した時の運動能力、生理的応答について理解できる。				
〔授業の概要〕				
本授業では、生活習慣病の予防・改善や地域高齢者の健康増進、介護予防、リハビリテーション等に関わるヘルスケアプロフェッショナルとして知っておくべき運動生理の基礎について講義形式で学習する。それぞれの器官の仕組みや運動時の変化について学ぶことで、療養指導・教育を行う際に必要な知識を身につける。				
なお、本講義は講義室での対面講義と基本とするが、やむを得ない場合はオンライン受講もしくはその内容を録画したものの聴講（オンデマンド）も可とする。また、各講義毎に小テストを行うことで、授業内容の理解を深めると共に、その提出をもって出席と取り扱うことにする。				
キーワード: 生理的指標、呼吸循環機能、身体組成、運動、エネルギー供給				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第 1 回	4/9 V	安静時と運動時のエネルギー代謝	エネルギー代謝の基礎、1 日の総エネルギー消費量の構成、エネルギー代謝の測定方法	
第 2 回	4/16 V	運動と身体組成	身体組成の測定意義や構成要素、運動が身体組成に及ぼす影響	
第 3 回	4/23 V	運動と呼吸・循環器の機能	呼吸・循環器系を構成する各器官・組織の仕組み、運動時の変化、最大酸素摂取量	
第 4 回	4/30 V	運動と骨格筋の機能	骨格筋の構造と筋収縮の仕組み、エネルギー供給系、筋疲労の原因代謝を測定する	
第 5 回	5/7 V	運動と中間代謝・内分泌の機能	運動と糖代謝・脂質代謝、運動時に働くホルモンなど	
第 6 回	5/14 V	環境と運動・栄養	ストレス時の生理的応答、環境（温度・気圧・無重力環境）による生理的応答	
第 7 回	5/21 V	運動能力の性差・加齢による変化	体力・運動能力の性差、成長・発達に伴う運動機能の変化	
第 8 回	5/28 V	総括	まとめ・レポート課題提示	
履修条件		なし		
予習・復習		参考書の関連領域を読んで予習・復習を行うこと。		
テキスト		なし		
参考書・参考資料等		健康・栄養系の運動生理学（南江堂）、栄養学イラストレイテッド運動生理学 改訂第 2 版（羊土社）		
学生に対する評価		小テスト（60%）、レポート（40%）により総合的に評価する		

授業 科目名	生化学総論 (Introduction of Biochemistry)	必修：看2年	1単位 15時間	担当教員名： 細山田康恵 (研究室：教育棟 A208)
		選択：歯・理・作1年	コード：BHA102	
		自由：栄1年	栄：BHA001	
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識 Ⅶ 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、医療従事者に必要な生命現象の仕組みを分子レベルで理解できるようにすることを目標に、以下のテーマで講義を進めていく。 ① 糖質・脂質・タンパク質などの生体成分の化学的な考え方や代謝を学び、説明できる。 ② 各種栄養素の相互作用、遺伝やホルモンについて知り、説明できる。				
〔授業の概要〕 生物の基本単位である細胞の構造と働き、主要な生体成分である糖質・脂質・タンパク質および核酸について、その化学と働きを理解することを目的とする。さらに、代謝に関与する酵素の働き、ビタミン・無機質の役割、遺伝情報、ホルモンなどについても理解させる。生体成分の構造、機能、代謝などを通して生命現象の仕組みを分子レベルで理解できるような内容の授業を行い、それによって生体成分を化学的に学習する。				
キーワード：栄養素、化学的性質、代謝、遺伝情報、ホルモン				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	4/10	ガイダンス	受講に関する注意事項、細胞機能などの概要	
第2回	4/17	糖質	糖質の分類と性質、解糖系エネルギー、糖質の代謝	
第3回	4/24	脂質	脂質の分類と性質、体内での脂質の運搬、脂質の代謝	
第4回	5/ 1	タンパク質、酵素	タンパク質の分類と性質、タンパク質の代謝 酵素の一般的性質	
第5回	5/ 8	核酸、遺伝情報	核酸の種類と構造、核酸の代謝、遺伝情報の流れ	
第6回	5/15	ビタミン	脂溶性・水溶性ビタミンの生理機能や欠乏症	
第7回	5/22	ホルモンと生理活性物質	ホルモンの種類と作用機序、サイトカイン	
第8回	5/29 前半 45 分	無機質 まとめ	主要な無機質の種類と働き 授業全体を通じたまとめ	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習としてテキストを熟読のこと。復習には配布資料の見直しを推奨。		
テキスト		系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔2〕生化学 三輪一智、中恵一 著、医学書院		
参考書・参考資料等		「ヒトの基礎生化学」川上浩、太田正人 編、アイ・ケイコーポレーション		
学生に対する評価		定期試験 80%、日ごろの学習態度 20%により、総合的に評価する。		

授業 科目名	栄養学Ⅰ（基礎） （NutritionⅠ）	履修年次： 必修：看・歯・理・作1年 自由：栄2年	単位数：1単位15時間 コード：BHA103、 栄BHA002	担当教員名： 金澤匠 （研究室：A206）
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本講義の到達目標は次の通りである。①栄養素の消化・吸収のシステムについて説明できる。②摂取した栄養素の体内での役割を説明できる。				
〔授業の概要〕 健康で生きていくためには食物中の栄養素と体との関係を理解することが必要である。この授業では栄養学の基礎知識を習得し、説明できるようになることを目的とし、食べ物の役割、消化・吸収機構、五大栄養素（糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラル）の構造や体内での役割（代謝の概要）など栄養学の基礎となる部分について解説する。				
キーワード：栄養素、消化と吸収、代謝				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	10/2	栄養と食物	栄養学の概要、食品の機能と分類	
第2回	10/9	消化と吸収	消化・吸収に関わる組織とその仕組み、消化吸収率	
第3回	10/16	糖質	糖質の分類と構造、体内での役割	
第4回	10/23	脂質	脂質の分類と構造、体内での役割、体内輸送	
第5回	10/30	たんぱく質・アミノ酸	たんぱく質・アミノ酸の構造と役割、必須アミノ酸	
第6回	11/6	ミネラル	ミネラルの分類と体内での役割	
第7回	11/13	ビタミン①	脂溶性ビタミンの体内での役割と欠乏症	
第8回	11/20	ビタミン②	水溶性ビタミンの体内での役割と欠乏症	
履修条件		特になし。		
予習・復習		予習ではテキスト等を熟読し、復習では授業のプリント類の見直しを行う。		
テキスト		「健康と医療福祉のための栄養学 第2版」渡邊早苗 他編集 医歯薬出版		
参考書・参考資料等		特に指定はしない。		
学生に対する評価		レポート（70%）、課題（20%）、授業態度（10%）により総合的に評価する。		

授業 科目名	栄養学Ⅱ（応用） （NutritionⅡ）	履修年次： 必修：歯1年 選択：看・理・作1年、看編3年 自由：栄2年	単位数： 1単位15時間 コード：BHA104、 栄BHA003	担当教員名： 金澤匠 （研究室：A206）
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本講義の到達目標は次の通りである。①栄養素の代謝メカニズムについて説明できる。②栄養素の望ましい摂取量について説明できる。③食事摂取のタイミングが代謝に及ぼす影響について説明できる。				
〔授業の概要〕 この授業では栄養素の役割を理解する上で重要である代謝メカニズムについて理解し、説明できるようになることを目的とする。そのために栄養学Ⅱでは、栄養学Ⅰで学んだ栄養素の代謝の詳細なメカニズムや栄養素相互の関係性などについて解説する。また、それぞれの栄養素の望ましい摂取量やエネルギー産生栄養素（糖質、脂質、たんぱく質）が関わるエネルギー代謝、食事摂取のタイミングが代謝に及ぼす影響などについても解説する。				
キーワード：栄養素、代謝、食事摂取基準、時間栄養学				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	11/20	講義の概要	講義の概要	
第2回	11/27	糖質	糖質代謝（血糖値の調節）、他の栄養素との関係、食物繊維	
第3回	12/4	脂質	脂肪酸・コレステロール代謝、ケトン体、機能性脂質	
第4回	12/11	たんぱく質・アミノ酸	たんぱく質・アミノ酸代謝、たんぱく質の栄養評価	
第5回	12/18	水・電解質、その他の成分	水の出納、アルコール代謝、脱水と浮腫、生体や食品中の生理活性物質	
第6回	1/8	エネルギー代謝	消費エネルギーの種類と測定法、臓器別エネルギー代謝	
第7回	1/22	栄養素の望ましい摂取量	食事摂取基準の概要、食事バランスガイド	
第8回	1/29	時間栄養学、栄養と遺伝子	時計遺伝子、栄養素による遺伝子制御、遺伝子と生活習慣病	
履修条件		特になし。		
予習・復習		予習ではテキスト等を熟読し、復習では授業のプリント類の見直しを行う。		
テキスト		「健康と医療福祉のための栄養学 第2版」渡邊早苗 他編集 医歯薬出版		
参考書・参考資料等		特に指定はしない。		
学生に対する評価		定期試験（70%）、課題（20%）、授業態度（10%）により総合的に評価する。		

授業 科目名	心の健康 Mental Health	履修年次： 選択：栄・歯・理・作 自由：看	単位数： 1 単位 15 時間 コード：BHA105 看：BHA004	担当教員名： <u>科目責任者 小宮浩美</u> (研究室 教育棟 B315)
		実務経験のある教員による授業科目		

〔DP〕Ⅰ. 倫理観とプロフェッショナリズムⅡ. コミュニケーション能力Ⅲ. 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
1) こころの健康の回復や保持増進のために必要な知識について説明できる。				
2) 保健医療職者として精神症状をもつ人とコミュニケーションする際に必要な技術と態度が習得できる。				

〔授業の概要〕				
本授業は保健医療専門職者として、こころの健康とこころの健康課題をもつ人に対する理解を深め、こころの健康の回復と保持増進に必要な基礎知識を理解することを目的とする。こころの健康、ライフサイクルにおけるこころの健康問題、医療現場におけるコミュニケーション、家庭・学校・職場や地域など環境におけるこころの健康問題について、講義形式により教授する。また、一部に演習形式を取り入れ、精神症状をもつ人とのコミュニケーション技術の基礎について学修することも目的とする。				
キーワード：精神的健康、精神症状、コミュニケーション、ストレス、ライフサイクル				

〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	10/2	ガイダンス こころの健康について	ガイダンス こころの健康とは何か 予習：こころの健康とはどのような状態にあることをいうのか、様々な世代や立場の人から意見を聞き、文章で整理しておく。 復習：こころの健康について、様々な定義をもとに自分の考えをFormsにまとめる。	
第2回	10/9	こころ（精神）のとらえ方	脳の構造と認知機能、精神（心）の構造と働き	
第3回	10/16	こころ（精神）の発達に関する主要な考え方と健康問題	ライフサイクルにおける精神的健康問題と精神発達の理論（フロイトの精神的発達理論、エリクソンの漸成的発達理論、Mahlarの分離個体化理論）	
第4回	10/23	環境におけるこころ（精神）の健康問題	家族と精神（心）の健康、暮らしの場と精神（心）の健康、現代社会と精神（心）の健康（虐待、アルコール依存症、うつ病、自殺、ハラスメント、DV）	
第5回	10/30	こころ（精神）の危機状況と精神保健	危機理論、ストレス、ストレスマネジメント	
第6回	11/6	医療現場におけるコミュニケーション（1）	演習：精神症状をもつ人とのコミュニケーション、ケア、コミュニケーション、コミュニケーション技術	
第7回	11/13	医療現場におけるコミュニケーション（2）	演習：自己理解・他者理解、傾聴、共感	
第8回	11/20	まとめ	授業全体を通じたまとめ（半コマ）	

履修条件	特になし
予習・復習	第1回は本シラバス参照。第2回以降の各予復習内容は、初回ガイダンス資料で提示する。
テキスト	特に指定しない。授業の中で適時紹介する。
参考書・参考資料等	特に指定しない。授業の中で適時紹介する。
学生に対する評価	定期試験（65%）、課題（30%）、学習態度（5%）により総合的に評価する。

授業 科目名	薬理学Ⅰ（総論） (PharmacologyⅠ)	履修年次:1年	1単位 15時間	担当教員名： 科目責任者 橋本弘史 (安西尚彦、平山友里、 入鹿山容子、並木香奈)
		必修 看, 栄, 歯	コード: BHA106	
		選択 理, 作		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 薬物が生体に作用して起こす反応と、その作用がどのような作用機序で起きたかを知ることです。薬物治療において、その薬物はどのような場所に行き、どのような働きをするのか、またその薬物は生体において、どこで、どのように吸収され、どこで変化し、どのように排泄されるのかなどを学びます。例として、自律神経系に作用する薬物や痛みに対する薬物を挙げて講義を進めます。				
〔授業の概要〕 薬理学は生態系（人間）と化学物質（薬物）の相互作用を研究する生命科学の一つである。生体系の調節機構の障害などにより引き起こされた病態に対し、薬物は疾病の診断、病気の治療、また、予防などすべての分野において使用されている。本授業Ⅰ（総論）は、薬物はどのような作用を持っているのか、薬物の体内移動について、また薬物の相互作用などについて学習します。さらに、中枢神経系、末梢神経系に作用する薬物について学習します。				
キーワード: 薬理作用、薬物代謝、自律神経系作用薬、中枢神経系薬、鎮痛薬、循環器系薬				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	担当
第1回	10/7	薬理学総論（1）	薬物と薬理学・薬物作用	橋本弘史
第2回	10/21	薬理学総論（2）	薬物の体内動態と薬物相互作用	安西尚彦
第3回	10/28	薬理学総論（3）	処方の実際・エイジング	橋本弘史
第4回	11/4	末梢神経系	自律神経と薬物 局所麻酔薬	平山友里
第5回	11/11	中枢神経系（1）	全身麻酔薬 催眠薬 抗不安薬 抗精神病薬 オピオイド鎮痛薬	平山友里
第6回	11/18	中枢神経系（2）	抗うつ薬 抗躁薬 抗てんかん	入鹿山容子
第7回	11/25	循環器系（1）	抗不整脈薬・心不全治療薬	並木香奈
第8回	12/2	循環器系（2）	虚血性心疾患治療薬 降圧薬	並木香奈
履修条件		特になし。		
予習・復習		事前に、テキストを見ておくように。復習にはノートの見直しをするように。		
テキスト		安西尚彦他：コメディカルのための薬理学 第4版，朝倉書店。 適宜プリント等を配布する。		
参考書・参考資料等		吉岡充弘他：系統看護学講座，専門基礎分野，薬理学，医学書院。		
学生に対する評価		定期試験の成績（90%）、各講義における小テストを含む授業態度等（10%）により、総合的に評価する。		

授業 科目名	薬理学Ⅱ（各論） (PharmacologyⅡ)	履修年次:1年 必修 看,栄,歯 選択 理,作	1単位 15時間 コード: BHA107	担当教員名: 科目責任者 橋本弘史 (並木香奈、北村里衣、 高屋明子、石毛久美子)
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 薬物が生体に作用して起こす反応と、その作用がどのような作用機序で起きたかを知ることです。 薬物治療において、その薬物はどのような場所に行き、どのような働きをするのか、またその薬物は生体において、どこで、どのように吸収され、どこで変化し、どのように排泄されるのかなどを学びます。 主要な治療薬の効き方と有害作用（副作用）を学びます。				
〔授業の概要〕 薬物療法の実際を各科にあわせて主な薬物を講義してゆきます。主に①血液系に作用する薬物、②免疫・呼吸器系に作用する薬物、③消化器系に作用する薬物、④泌尿器系に作用する薬物、⑤代謝・内分泌系に作用する薬物、⑥悪性腫瘍に対する薬物、⑦感染症に対する薬物、などについて、薬物の作用、作用機序、副作用などを上げて、疾病との関わりを学習する。				
キーワード: 呼吸器系薬、消化器系薬、泌尿器系薬、代謝・内分泌系薬、抗がん薬、抗菌薬、抗ウイルス薬				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第1回	12/2	血液系	抗凝固薬	並木香奈
第2回	12/9	泌尿器系	利尿薬 排尿治療薬	北村里衣
第3回	12/16	感染症（1）	抗菌薬	高屋明子
第4回	12/23	感染症（2） 泌尿器系	抗ウイルス薬	高屋明子
第5回	1/6	免疫系	抗炎症薬 免疫抑制薬 抗アレルギー薬	石毛久美子
第6回	1/13	消化器系・呼吸器系	抗潰瘍薬 制吐薬 気管支喘息治療薬	石毛久美子
第7回	1/20	代謝・内分泌系	インスリン 糖尿病治療薬 性ホルモン 甲状腺ホルモン 副腎皮質ホルモン	石毛久美子
第8回	1/27	悪性腫瘍	抗がん剤	石毛久美子
履修条件		特になし。		
予習・復習		事前にテキストを見ておくように。復習にはノートの見直しをするように。		
テキスト		安西尚彦他: コメディカルのための薬理学 第4版, 朝倉書店。 適宜プリント等を配布する。		
参考書・参考資料等		吉岡充弘他: 系統看護学講座, 専門基礎分野, 薬理学, 医学書院。		
学生に対する評価		定期試験の成績 (90%)、各講義における小テストを含む授業態度等 (10%) により、総合的に評価する。		

授業 科目名	病理学Ⅰ (PathologyⅠ)	履修年次 必修	1 単位 15 時間	担当教員名: 福井謙二 [歯科医師] [死体解剖資格] (非常勤講師室)
		全学科専攻 1 年	コード:BHA108	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識 Ⅳ 健康づくりの実践 Ⅶ 生涯にわたる探求心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 病理学は疾病の原因と成り立ちを究明する学問である。病理学総論として、疾病における、全身の臓器、組織に共通な変化を分類し理解する。さらにどのような機能的障害が引き起こされるかを学習する。 病理学はしばしば基礎医学と臨床医学の境界領域に位置づけられるが、この講義で習得した知識や考え方が臨床医学の場で発展されることを目指す。				
〔授業の概要〕 疾病における、全身の臓器、組織に共通な変化として、先天異常・奇形、代謝障害、進行性病変、循環障害、炎症、腫瘍などに分類して解説する。 歯科医師、死体解剖資格認定の実務経験により、病理学Ⅰの講義に関する学習の支援を行う。				
キーワード:病理学, 先天異常, 代謝障害, 進行性病変, 循環障害, 炎症, 腫瘍				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第 1 回	4/15	病理学概説, 病因論	病理学の意義, 病理診断方法, 疾病の原因	
第 2 回	4/22	先天異常・奇形	遺伝性疾患, 染色体異常, 胎児障害	
第 3 回	5/13	退行性病変, 代謝障害	物質代謝異常による変化	
第 4 回	5/20	進行性病変	修復と再生時の変化	
第 5 回	5/27	循環障害	体液循環の異常による変化	
第 6 回	6/3	炎症, 免疫, 感染症	炎症の種類, アレルギー, 感染源と感染経路	
第 7 回	6/10	腫瘍	腫瘍の分類, 腫瘍の広がり	
第 8 回	6/17	統計	死因統計	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習として解剖学, 生理学の見直し。復習としてハンドアウトの整理。		
テキスト		系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進 病理学 著者: 大橋健一他 医学書院		
参考書・参考資料等		特になし		
学生に対する評価		定期試験 (80%), 提出物 (10%), 学習態度 (10%) により評価する。		

授業 科目名	病理学Ⅱ (PathologyⅡ)	履修年次 1 年	1 単位 15 時間	担当教員名: 福井謙二 [歯科医師] [死体解剖資格] (非常勤講師室)
		必修: 看, 栄, 歯 選択: 理, 作	コード: BHA109	
		実務経験のある教員による授業科目		
[DP] Ⅲ 実践に必要な知識 Ⅳ 健康づくりの実践 Ⅶ 生涯にわたる探求心と自己研鑽				
[授業の到達目標及びテーマ] 病理学は疾病の原因と成り立ちを究明する学問である。病理学各論として、各臓器・系統別に疾病の原因、経過から終焉までの流れを理解する。疾病の原因によって生じる形態学的な変化を理解し、さらにどのような機能的障害が引き起こされるかを学習する。 病理学はしばしば基礎医学と臨床医学の境界領域に位置づけられるが、この講義で習得した知識や 考え方が臨床医学の場で発展されることを目指す。				
[授業の概要] 循環器系、呼吸器系、消化器系など、各臓器・系統別の疾患について解説する。 歯科医師、死体解剖資格認定の実務経験により、病理学Ⅱの講義に関する学習の支援を行う。				
キーワード:病理学, 臓器別, 系統別				
[授業計画]				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第 1 回	6/17	循環器系の疾患	心筋梗塞, 動脈硬化症など	
第 2 回	6/24	血液・造血器系の疾患	貧血, 白血病など	
第 3 回	7/1	呼吸器系の疾患	鼻炎, 肺炎, 肺癌など	
第 4 回	7/8	消化器系の疾患	食道癌, 胃潰瘍, 胃癌, 炎症性腸疾患, 大腸癌, 胆石, 肝炎など	
第 5 回	7/15	腎, 泌尿器系の疾患	腎炎, 尿路結石, 膀胱癌など	
第 6 回	7/22	生殖器系, 乳腺の疾患	前立腺肥大症, 前立腺癌, 子宮癌など	
第 7 回	7/24	神経系の疾患	脳出血, 脳梗塞, アルツハイマー病, パーキンソン病など	
第 8 回	7/29	運動器系の疾患	筋委縮性側索硬化症, 筋ジストロフィー, 重症筋無力症など	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習として解剖学, 生理学の見直し. 復習としてハンドアウトの整理		
テキスト		系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進 病理学 著者: 大橋健一他 医学書院		
参考書・参考資料等		特になし		
学生に対する評価		定期試験 (80%), 提出物 (10%), 学習態度 (10%) により評価する.		

授業 科目名	微生物学Ⅰ（総論） (Microbiology)	履修年次：	1 単位 15 時間	担当教員名： 清水 健 (非常勤講師室)
		必修：看・歯・理1年 選択：栄1・4年、作1年	コード：BHA110	

〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識,Ⅳ 健康づくりの実践,Ⅴ 健康づくりの環境の整備・改善
--

〔授業の到達目標及びテーマ〕
本授業では、以下の項目を到達目標とした講義を行い、到達目標の達成度を評価する。
① 微生物の種類と各微生物の特徴を理解し、述べることができる。
② 病原微生物の感染経路、感染症の発症、生体の応答について概略を説明することができる。
③ 病原微生物に対する生体の応答について概略を説明することができる。

〔授業の概要〕
感染症は全ての診療科に関連する重要な疾患で、医療の現場では様々な感染症に対する知識が必要不可欠である。この授業では講義形式により、感染症の原因となる各種病原微生物の一般的な性質と、それらが人体に感染する仕組みと予防を学ぶ。さらに、感染症に対する生体の免疫応答機構の仕組みについても学ぶ。授業終了後には、医療の現場で感染症の原因となる病原微生物の基礎知識が身に付いていることを目的とする。

キーワード：細菌、ウイルス、真菌、免疫

〔授業計画〕			
回 数	日付	テ ィ マ	内 容
第1回	4/15	微生物の性質	細菌の性質・真菌の性質
第2回	4/22	微生物の性質	原虫の性質・ウイルスの性質
第3回	5/13	感染と感染症	病原微生物の感染、感染成立、発症、治癒
第4回	5/20	感染と感染症	各病原微生物の感染経路、感染症の特徴
第5回	5/27	生体防御反応と免疫応答	自然免疫のしくみ
第6回	6/3	生体防御反応と免疫応答	獲得免疫のしくみ、感染症の症状
第7回	6/10	感染源・感染経路	感染経路と病原微生物
第8回	6/17	まとめ	病原性微生物の理解を深める

履修条件	特になし
予習・復習	予習としてテキストを確認し、復習はテキスト、プリントの見直しをすること。
テキスト	「微生物学」系統看護学講座専門基礎分野、医学書院
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。
学生に対する評価	定期試験（100%）、日ごろの学習態度により、総合的に評価する。